

彩の歳時記

平成二十五年 三月

『春眠 暁を覚えず・』 『春宵一刻値千金』 など、日本人の生活になじみ深い言葉です。

春暁 孟浩然
春眠不覺曉
處處聞啼鳥
夜來風雨聲
花落知多少

共に漢詩に由来します。「春の眠りは心地良く、朝になったのも気づかない。」と言うように暖かな陽射し、春風が心地よい季節、つい寝坊しがちです。この時期、ホルモンバランスの変化が大きく身体が活動的になり睡眠も浅く、自立神経が乱れると言われます。宵(よい)になってもさほど寒くない春宵、優雅で華やいだ千金の価値があるひと時は、古人にとって、詩的な世界だったのでしよう。寒さで緊張していた筋肉が弛み、新しい好奇心が芽吹く季節、「華やぎ」を装ってみたいものです。

春夜 蘇軾
春宵一刻値千金
花有清香月有陰
歌管樓臺聲細細
鞦韆院落夜沈沈

三月の異称

弥生 弥は「弓をゆるめる」の意で「いよいよ、ますます」の副詞が転化。植物がますます生まれる月。花月・桜月。水底に映れる影もぬるむなり 杉田久女

三月の暦

三日 上巳の節句・ひな祭り 高貴な生まれの女の子の厄除けと健康祈願の祝としての「桃の節句」が庶民にも定着、お七夜やお宮参りと同様、健やかな成長を願う。「流し雛」は、子供の災厄を代わりに引き受けて流されてくれる災厄除けの守り神。



五日 啓蟄【二十四節気】土の中で縮こまっていた冬ごもりの虫(蟄)が穴を開いて(啓いて)動き出す日。十日 東京都平和の日 1945年(昭和二十年)、死者約10万人、焼失家屋約27万戸、第二次大戦で最大級の被害を出した空襲を忘れないため、都民が平和について考える日として1990年に制定。

十一日 東日本大震災の日 2011年【平成二十三年】のこの日、14時46分、宮城県沖海底で発生した津波により、東北地方・関東北部の太平洋沿岸部に壊滅的な被害がもたらされた。地震の規模は(Mw)9.0とされ、日本観測史上最大の地震。死者・行方不明者はあわせて1万9千人以上、建物は全壊・半壊、38万戸以上。福島第一原子力発電所でメルトダウン事故が発生し、これより原発に頼るエネルギー対策に疑問を持つ人々の脱原発運動がうねりを見せている。



十二日 お水とり【東大寺二月堂】春の訪れを告げる伝統的年中行事の一つ。752年から始まる。若狭井(わかさい)から香水(こうずい)をくみ、本堂内陣に運ぶ儀式があるところから、この名が。その水を飲めば万病が治るといわれる。

十七日 彼岸入り(明けは3日) 太陽が真東から昇って真西に沈む秋分と春分は、彼岸(あの世)と此岸(この世)が最も通じやすくなると考えられ、墓参をするようになった。

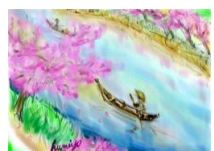
二十日 春分の日【二十四節気】春彼岸の中日。昼夜の長さがほぼ等しい。



三月の歌

花 明治三十三年 自费出版の滝廉太郎歌曲集『四季』の第一曲、春から。他にも、第3曲・夏『納涼』第3曲・秋『月』第4曲・冬『雪』。東京音楽学校(現東京芸大)教授・武島羽衣【1872~1967】と同助教授・滝廉太郎【1879-1903】共作による。当時、羽衣・二十八歳、廉太郎・二十一歳。

隅田川は、古く「住田河・宮戸川」とも呼ばれ、江戸時代に吾妻橋辺りより下流は「大川」と呼ばれていた。今でも古典落語や時代小説ではこう呼ぶ。語意は「われさしまねく」私を呼んでいる。「あけぼの」夜明け。「錦おりなす」錦のように美しい景色が織りなされている。「長堤」長い土手。「くるれば」日が暮れると。「げに」実に、本当に「一刻も千金の」ひとときが 千金に値するほどすばらしい。



春のうららの隅田川のほりくだりの船人が 權のしづくも花と散る、ながめを何にたどふべき。見ずやあけぼの露浴びて、われにも言ふ桜木を、見ずや夕ぐれ手をのべて、われさしまねく青柳を。錦おりなす長堤に くるればのぼるおぼろ月。げに一刻も千金の ながめを何にたどふべき。